

カナダの国防政策を再検討



リチャードソン国防大臣

自国の安全保障と

同盟国の共同防衛が基本的使命

課題は装備の近代化

カナダ政府は、このほど国防政策を再検討した。その結果、国防省の基本的役割が再確認されたほか、カナダ軍の将来にとってきわめて重要な決定がなされた。以下、ジェームス・リチャードソン国防大臣が下院で行った防衛機構再検討に関する報告。

政府は、国防省のもつ四つの優先的役割——すなわち、①カナダの防衛、安全保障、主権に対する義務遂行、②北アメリカ共同防衛に対する義務遂行、③北大西洋条約機構（NATO）内の集団安全保障に対する義務遂行、④カナダの独特かつ重要な国際的平和維持への寄与に対する義務遂行——を再確認した。

また、再検討の結果、カナダは引き続き、正規兵七万八千人、予備役二万二千人、計十万人の兵力を維持することも、確認した。総兵力十万によって、カナダ軍は引き続きカナダの主権を守り国家の安全保障に寄与するとともに、同軍でしか対応できないような、いかなる民間の緊急事態にも即応することができよう。

政府は、カナダ軍が四つの優先的役割を効果的に実行するだけの能力を維持するには、ただちに主要な軍事装備の大幅な近代化と整備に取りかからなければならない、ということを確認している。

その他の主な決定事項は次の通り。

一、NATO中部地域の共同防衛に対して強力な戦闘能力を寄与する目的と装備をもつ陸上軍および空軍を、ヨーロッパに維持する。



訓練中のカナダ軍予備兵

二、ヨーロッパ駐留のカナダ陸上軍部隊が、他のNATO諸国の部隊と肩を並べて任務を遂行するのに必要な近代的装備をもてるよう、改装もしくは新規購入により、近代化かつ効果的な主要戦闘戦車を用意する。新しい戦車の購入や現行戦車部隊の近代化のための交渉は、近いうちに開始されることになっている。

三、現在のアーガス機に換えて、六億四千二百万ドルでロッキード製P3長距離哨戒機十八機を購入することに決定した。予備部品や地上データ・センター、連邦物品販売税、予備費、最終的引渡しまでのインフレによる差額などの関連費用を入れると、合計九億五千万ドルになろう。あとで触れる資本成長条項の枠内でこれらの出費をやるには、さらに経費がかかるだろう。新機は、主に、わが国沿岸や北極海においてますます増大するカナダの権益を保護するのに必要な長距離偵察を行う能力を高め、かつ北アメリカとNATOの防衛に欠かせない軍事的任務を遂行することに使われよう。

四、ヨーロッパに駐留する空軍飛行諸大隊の空中戦闘能力は、現在のレベルで維持する。カナダ国内の防空部隊は、侵入の識別および抑制という主権の発動に対応し得る能力水準を維持する。

五、カナダ軍は、国連の平和維持目的のために、常時、最高二千人を供与できるようにする。

以上の決定は、カナダ軍の態勢および装備について、早期措置を要する再検討事項に関するもので、戦闘機や艦船の整備についてはこれから引き続き検討する。

政府が来年以降、国防省の要員や作戦および兵站の予算にインフレ補正の必要性を認めたのは、国防の将来にとって特に意義がある。

国防省は、政府の経済抑制政策に合わせて、来年の戦車および長距離哨戒機計画開始に必要な資金を、現在予定されている予算の中から捻出する。それ以後については、政府は防衛に対する資本支出を最初の五年間は実質で年率一二%づつ上げ、資本支出が最終的には全防衛予算の最低二〇%に達するようにする、こと

に同意している。

防衛機構再検討の一環として、カナダ軍の作戦部隊を支援するのに必要な部隊支援施設の査定が行われた。支援施設には、本部、基地、訓練および教育施設、兵站施設が含まれる。これには全防衛計画（要員および資金）の大きい部分が要求される。過去何カ年にわたり、これらの分野はある程度統合されてきた。しかし、わが国の現在の部隊支援施設は今でも作戦部隊の支援必要度を越え、したがって、こうした支援施設をさらにいくらか統合することによって、わが国の作戦能力を減らすことなく費用削減が達成できる、と信じている。この理由から、

私は二、三カ月内に、支援能力と作戦能力を均衡させ、それによってわが国の戦闘能力を部隊支援施設に見合うよう強化することを内閣に進言するつもりである。

カナダ国防省

カナダ国防省は、カナダの防衛、カナダ軍、防衛研究所、および防衛建設公社を管轄する。このうち、カナダ軍を統率するのが国防軍参謀総長。参謀総長はまた、カナダが当初から加盟している北大西洋条約機構（NATO）へのカナダ軍事代表でもある。

カナダは、一九六四年、陸、海、空というそれまでの伝統的な軍隊機構を大幅に編成替えし、これら三軍を機能別に五つのコマンドからなるカナダ軍に統合した。現在は、カナダ軍本部のもとに、次の七軍がおかれている。

一、機動軍——カナダの領土防衛のため、戦略防衛支援を含む部隊・装備を保有し、海外での任務遂行に必要な戦闘体形の作戦行動態勢を維持する。また、国連などの平和維持活動を支援する。

二、海洋軍——海上からの攻撃に対してカナダを防衛するほか、カナダの主権を守るた

めの措置を支援する。

三、防空軍——北米防空軍（NORAD）の一翼をなすもので、米国と共に北アメリカの防空に当たるほか、カナダ空域の主権を維持する。

四、空輸軍——カナダの防衛義務を遂行するための作戦上効果的な空輸を担当し、また航空機の救難に当たるほか、カナダの責任地域における海上救難作業を統轄する。

五、訓練軍——軍の訓練を一括して行なう。

六、通信軍——カナダ国内のすべての軍通信施設を管理し、緊急の際は通信網を連邦政府および州政府の使用に供する。

七、在欧カナダ軍——NATO軍を支援する。

カナダはさらに、北部の監視と開発に当る北方管区軍をおき、また国連などの国際平和維持活動に積極的に協力している。